がんの治療

～阿蘇中央病院～

外科部長
兼田　博

「がん」の治療には、手術・化学療法・放射線療法など、さまざまなものがありますが、今回は、化学療法を中心にお話したいと思います。

がんの化学療法とは、抗がん剤を用いてがん細胞を破壊したり、がん細胞の増加を抑えたりする治療法です。

がんが1ヵ所に留まっている場合は、手術や放射線治療などのように、がんが存在する部分だけを治療する方法(局所療法)で治療可能ですが、がんが転移し、ひどくなると全身病の状態となり、全身に作用する治療(全身療法)が必要となります。その全身治療の中心となるのが化学療法です。

抗がん剤というと、以前からマスコミやドラマなどでマイナス面ばかりが強調されたためとも思われますが、一般の方々から極端に嫌がられることがあります。しかし、抗がん作用を有する薬剤としては、これ以上のものは現在のところありません。いわゆる民間療法などで様子をみられる方もいますが、例えば健康食品で"人間のがん"に効果があることが証明されているのはほとんどありません。証明されたと表現していても、調べてみるとマウスなどの動物実験レベルまでしかされていないことが多く、本当に人間に効果があるかどうか不明な場合がほとんどです。最近、誇大広告で摘発された企業がでたことも記憶に新しいところです。一方、抗がん剤の方は、難しい臨床試験を経て国によって認可されており、全世界で使用されているため充分信頼できる臨床データが揃っています。おそらくドラマなどで、抗がん剤による吐き気や脱毛などの副作用だけが強調されたことが、最も敬遠される理由と思われますが、本当に抗がん剤が効いたら全身状態も改善するため、治療を終えた後も苦しさが残ることはまずありません。抜けた髪も抗がん剤をやめたらまた生えてきます。また、がんの中には、白血病や乳がんのように、抗がん剤の治療で"治癒"が期待できる"ものもあります。がんの種類や治療法などでも効果がさまざまなので、いたずらに避けないで、充分に担当医と相談することが大事だと思います。

理想的な抗がん剤は、がんに対して100%の効果を持ち、副作用が全くないものと言えますが、現在の抗がん剤は副作用もあり、効果は30～40%ほどで、理想とは遠いと言えます。将来的には、遺伝子レベルでの判定で、その患者様に効果があるかどうかが治療前にわかるようになると思いますが(テーラーメイド治療)、現状では行ってみないとわからないため、目的とするがんに合わせて薬剤を選んで、治療しているような状態です。非常に良く効く方もいれば、ほとんど効かない方もいます。副作用の強く出る方もいれば、ほとんど出ない方もいます。しかし、以前と比較すると、副作用を抑えるための支持療法もかなり進んでおり、可能な限り副作用を抑えながら、治療を長く進められるようになってきています。

治療についての説明が重要視されるようになると共に、患者様自身へ告知する機会も増えてきました。がんの治療は、患者様の死生観も考慮して進めていかなければならず、医療者として、やみくもにがんと闘うことを強要することはできません。しかし、化学療法が発達・進歩してきていることも確かで、前述の白血病や乳がんのように、根治に近い効果を得られたり、治療はせずとも長く現状維持を図り、意義のある延命効果を得られることもできるようになってきました。

阿蘇中央病院ホームページ　http://www.city.aso.kumamoto.jp/chuuou_hospital/index.html

戦没者の遺族の方々へ

戦没者遺族の悩みや相談に応じます。

戦没者の遺族に係る各種年金や給付金等、または生活上の問題などでお困りの方は、ぜひご相談ください。
秘密は厳守されます。

相談員　田嶋 日出志さん

一の宮町宮地102番地(Tel：22-1303)
現在、阿蘇市遺族会連合会会長。厚生労働大臣から委託により相談員業務にもご協力いただいています。

冬の感染症から身を守る

は～い！保健師です

寒くて乾燥する冬は、風邪などの感染症が流行しやすい季節です。今月は特に症状が強くて合併症をおこしやすい感染症の代表を紹介します(左表)。
新型の感染症等も懸念されますが、予防方法の基本は同じです。日頃から感染症に負けないように、手洗いうがい等の予防を行い、冬をのりきりましょう。

冬の感染症の比較

	普通感冒	インフルエンザ	SARS
症状	鼻みず・鼻づまり・のどの痛み・咳・たん・くしゃみ・微熱～38度くらいの発熱	突発の高熱(38度以上)頭痛・関節痛・筋肉痛・体のだるさ	突発の高熱(38度以上)頭痛・関節痛・筋肉痛・体のだるさ・激しい咳・呼吸困難(重症肺炎)
特徴	普通は１週間程度で治るが、気管支炎・肺炎などに移行することもある	高齢者は肺炎をおこしやすい。年齢によって効果が異なるが、予防接種がある。(広報９月号をご覧下さい)	海外の一部の地域で流行した。治療法は確立されていない。
注意	「風邪は万病の元」、甘くみていると重症化します。特に乳幼児など抵抗力の弱い方に対して、自己判断で残っている薬を投与したり、解熱剤を使いすぎるのは危険です。	症状が出たら48時間以内に病院を受診しましょう(抗インフルエンザ薬が有効です)。子どもにアスピリン入りの解熱剤(大人用)などを使用すると、急性脳炎を起こす危険性があるので、絶対にやめましょう。	ＳＡＲＳ患者との接触を避けることが重要!!万が一流行している地域から戻った後に症状が出た場合は、外出せずに保健所に相談してください。

冬をのりきるための感染症の予防方法

基本は手洗いとうがい！

＝保湿と保温＝

ウイルスや菌は、低温低湿を好みます。衣服や室温・湿度の調節を行いましょう。「のどが痛い」と思ったら、お茶などでのどを潤し、部屋の空気の入れ替えをし、屋外ではマスクをしてのどを保湿するのも効果的です。

＝手洗いうがい＝

手についた菌やウイスルを石鹸でしっかりと洗い流し、うがいで口やのどからの進入を防ぎましょう。

＝栄養と休養＝

日頃から栄養バランスのとれた食事をとり、体力を維持することが大切です。また、疲労がたまると抵抗力がおちます。充分な睡眠をとり、疲れがたまる前に休養をとりましょう。特に小児の夜深しは体力を落としますので早寝早起きの習慣をつけましょう。

＝水分補給＝

体内の水分が不足すると抵抗力が落ちてしまいます。こまめに水分補給しましょう。また、乳幼児や高齢者が感染症にかかったら、脱水症状を起こしやすいので、特に注意が必要です。

＝マスク着用＝

もし、感染症にかかってしまったら、周りの人にうつさないように、また、流行時期にはうつらないようにマスクを着用しましょう。